

# 電装系に気をつけながら水洗い しっかり水分を飛ばせばダイジョーブ



エンジンルームがきれいだってことは  
日ごろからメンテナンスを怠っていない証拠  
ちょっとしたオイルにじみを見逃さないとか  
フィルターが真っ黒だとかってコンディションを  
ちゃ〜んとしているってことなんだよね  
だから内外装だけじゃなくて、エンジンルームも  
キレイにしてあげてほしいと思うのだ!

怖がらずに  
やろう!

ここでも基本は水洗い  
隠せず水をジャブジャブと

洗車を定期的に行っているけど、エンジンル  
ームだけはどうしてもいいかわからない、な  
んていう人はけっこう多いもの。エンジンル  
ームにはエンジンを稼働させるためのさまざま  
まなパーツが詰まっているし、インテークや  
電装系など、ぬれてはまずいものも事実ある。  
だから、ウエスでふく程度で終わってしま  
いがちになるけど、それでは細部にまで入り



エンジンルームがキレイだとうれしくなる。  
ちなみにプロは水洗いしたあとでフロアで水  
を吹き飛ばす。しっかりふき取るのがコツだ。



水を通さなければコンビニの袋でもなんでも  
OK。覆うだけだと心配ならビニールテープ  
でしっかり口をふさごう。取り忘れ注意。



エアフロメーターも水  
ぬれに注意したいポイン  
トのひとつ。ちなみに  
エンジンルームはエン  
ジンが冷えていると  
きに行うこと。

エンジンルーム内はほ  
おっておくと路面側か  
ら進入するホコリやド  
ロ水などで汚れてしま  
うもの。つまり、十分  
耐性はある。



スパークプラグ周囲もぬれに注  
意が必要。シリンダーヘッドカ  
バー自体に水をかけないように  
洗ってあげるといいだろう。



これはパワートランジ  
スター。エンジンを点  
火するための大切な  
パーツだからビニール  
袋などで覆って防水し  
ておくこと。

エンジンルームは見違  
えるほどキレイにな  
っているはず！ん  
ん、こいつは気分が  
いいぜ。

込んだ汚れを落とすことができない。  
じゃ、プロはどうしているのかというこ  
ト、ホースでしっかり洗っているのではな  
いか！ 要するに、ぬらしてはダメなポイン  
トさえ把握してきっちり保護しておけば、そ  
れほど怖がらなくてもよかったのだ。  
水に濡らしてはいけないのは、バッテリー、  
パワトラ、エアフロ、プラグまわり。ここに  
コンビニ袋でカバーしたりして水をかけな  
いようにすればOKだ。あとはホースの水十  
ブラシで優しく洗ってあげよう。作業後のエ

## コンプレッションがよみがえるからトルクアップを実感できる



	使用前	使用后
1番	13.3kg/cm <sup>2</sup>	14.1kg/cm <sup>2</sup>
2番	13.2kg/cm <sup>2</sup>	14.0kg/cm <sup>2</sup>
3番	13.1kg/cm <sup>2</sup>	14.0kg/cm <sup>2</sup>
4番	13.4kg/cm <sup>2</sup>	14.6kg/cm <sup>2</sup>

**コンプレッションの変化**  
いずれもコンプレッションが上昇している。  
しかも4番は1kg/cm<sup>2</sup>も向上したのにはビッ  
クリ。吹け上がりもよくなったような……?



テスト結果がわかりやすいよう  
に、コンプレッションの計測を行  
う。しっかり暖機、慣らしをして  
添加剤をなじませるのがキモ。



エンジンのシリンダーに直接点火するの  
が、ニューテックのインターセプターだ。プ  
ラグホールから各シリンダーへと注入させる  
ので、その成果はすぐに表れる。  
エンジンを暖機したあとから作業開始。プ  
ラグを取り外して、各気筒に10ccを目安に注  
入する。目盛り付きのスポイトがあるとな  
っても便利だぞ。それからスターターでクラ  
ンクシャフトを5回転ほど回す。  
プラグをセットしてから再びアイドリン  
グ。15分ほど放置する。マフラーから白煙が  
消えない場合には、さらにアイドリングを15  
分追加。あまりハードにはなく、50から1  
00km走ればシリンダー  
になじむ。

